

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	福祉のデザインとアートで障がいのある人の「しごと」を考える事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人リベルテ (住所 長野県上田市中央4丁目7-23 電話 0268-75-7883)
事業区分	主となる区分：保健、医療、福祉の充実 関連する区分：教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	866,749 円 (うち支援金： 634,000 円)

事業内容

1.障がいのある人の新しい働き方の紹介のパネル等の展示を実施

時期：2017年11月21日(火)～12月3日(日)

場所：犀の角 (上田市中央2丁目11-20)

来場者：200人

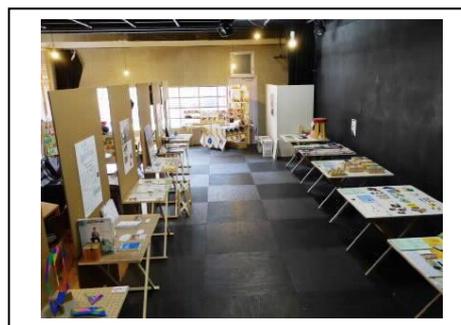
- ・ Good Job!展 2016-2017 で展示された取り組みとして「Good Job! Exhibition」の巡回展示
- ・ 上田市内の取り組み(6団体)の紹介

イベント：シンポジウムの実施

2.『第3期 長野県の福祉のデザインとアートを考える』

報告書冊子/2,000部

時期：2018年3月1日付け発行、3月配布



【展示風景】

【目標・ねらい】

- ①全国の事例を市民に紹介し、障がいのある人の新しい働き方や生き方、福祉を広く知ってもらい考える機会をつくる。
- ②アート・プロジェクトの「しごと」や「はたらく」事例から新しい障がいのある人の働き方の価値を文化として考え伝える機会をつくる。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 2週間の展示会・シンポジウムの期間の間に来場者数200名、シンポジウム参加者32名があり、ボランティアについても学生や一般参加者も合わせて36名に関わっていただけた。障害のある人の働き方や生き方についての講師依頼を県内外参加者から主催団体に依頼があった。
- ② 展示鑑賞者・シンポジウム後のアンケートや、報告書を2,000部作成し配布などを行った。また県内参加者に実践報告の機会をいただき、障害のある人の表現活動と織りや手芸のテーマで話す機会を得た。

※自己評価【A】

【理由】

- ・ 展示に予想集客2倍の来場者があった。
- ・ シンポジウムに目標来場者の7%多い参加者
- ・ アンケート実施ができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

長野大学内でリベルテの寄付集めにボランティアサークルが活動として取り組みはじめている。企画後、松本市や上田市ではスターボックス上田店での作品展示が決まり、実施している。今後も、他店に企画展として巡回などの話題もあがっている。トークイベント・シンポジウムは地域の中で言い当て難い障害や文化の意味を考える機会として取り組んでいく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田街中演劇祭 2017ー演劇による中心市街地振興と劇場文化担い手育成事業
事業主体 (連絡先)	シアター&アーツうえだ 上田市中央2丁目11-20
事業区分	教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,196,218円 (うち支援金: 1,446,000円)

事業内容

上田市の中心市街地には芸術文化に触れる機会が少なく、演劇については関わる人口も少ない。横のつながりも薄く、担い手も育てていない現状を変えようと、中心市街地の商店街に面した会場や、空き店舗、または人気の店舗等、複数の会場で9月16日～10月29日まで「上田街中演劇祭 2017」を開催した。

【優れた舞台芸術の紹介活動 4団体】

9月30日(土)～10月1日(日) 演劇/BOOK&CAFÉ NABO

木内琴子+アートひかり 『NABO 劇場～つつじと紅葉～』 作・演出: 荒井洋文、仲田恭子 出演: 木内琴子、他

9月30日(土)～10月1日(日) 演劇/犀の角

アートひかり 『王様盛衰記』

作: ギィ・フォワシィ 翻訳: 山本邦彦

演出: 仲田恭子

10月13日(金)～15日(日) 演劇/犀の角

百景社 『銀河鉄道の夜』 原作: 宮沢賢治

構成・演出: 志賀亮史

10月14日(土)～15日(日) 舞踏・演劇/コウズケヤ

ビル

双身機関 「授業-イヨネスコ作『授業』より-」

演出: 寂光根隅の父 原作: イヨネスコ

【街で創る!アーティストインレジデンス in 海野町】

10月3日(火)～8日(日)

トーク/犀の角 岸井大輔・熊倉敬聡による上田のリサーチと24時間トーク『上田で考える、世界で起きているあらゆることについて語り尽くす。』

【地元劇団応援】

・劇団シリウス 『銀河鉄道の夜』 作: 宮沢賢治

演出: 西村宗基

・ACT.MAFIA TOKYO BOWZ 『六文銭の片隅で』

作・演出: 綾太

・犀の角演劇クラブ 『アーリア・ヤクタ・エスト』

構成・演出: 仲田恭子

※活動写真



百景社『銀河鉄道の夜』公演写真

【目標・ねらい】

- ① 演劇文化及び、中心市街地振興
- ② 劇場文化担い手育成

※自己評価【 A 】

- ・観客が昨年と比べて 85%増加した。
- ・中心商店街における演劇の公演数が5公演から11公演と倍以上になり、中心商店街で文化芸術に触れる機会が増加した。
- ・上田地域の劇団が4劇団から5劇団になり、演劇創作に関わる人口が増加した。
- ・劇場を訪れた観客が街中を回遊することで中心商店街に賑わいをもたらしただけでなく、アフタートークなどで観客とアーティストが対話をし、地域間交流や、観客同志の会話により世代間交流が促進された。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 上田地域で鑑賞する機会の少ない優れた小劇場演劇作品を上演し、地域住民に芸術作品の鑑賞機会を提供することができた。
演劇祭の観客数の増加 目標年度 H29 対 H28
比 93%増 (H29: 871名 ← H28: 450名)
- ② 空き店舗を演劇の公演会場として有効活用しつつ、中心商店街への集客を促すとともに、空き店舗の多い地域課題に目を向けてもらうことができた。利用した空き店舗には、事業後に入居希望者が現れた。
- ③ 上田地区で地道に活動している地域劇団の公演活動を広報面、会場費などの面で支援し、招聘劇団との交流の機会を作ることができ、地域間交流が促進された。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も上田市の海野町商店街にある民間文化施設を拠点に、年間を通して演劇公演を行っていくことで、観客の創出とともに制作者、技術者などの人材の育成も行っていく。

来年度の演劇祭では、新たに別の空き店舗等を活用するなど中心商店街の各団体、店主、家主等と連携しながら、より多くの会場で、優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を提供する。より多くの市民に観ていただくため、特に広報宣伝面を強化していく。観客、アーティスト、運営スタッフなど、すべての演劇祭に関わる人間が、多種多様で、お互いの文化的背景を認め合いながら、世代間、地域間、ジャンル間の人的交流が促進されるようにしたい。特にボランティアスタッフの組織化や、初心者向けのワークショップなど観客人口を増やす取り組み、観客同志が出会える交流会の開催などを積極的に行う。新たなたなこれからの時代を生きるための価値が創造され、上田からその新たに発見した価値を世界へ発信していくような演劇祭にしていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	太陽と大地の聖地・別所温泉を定着させる地域活性化事業
事業主体 (連絡先)	別所温泉活性化プロジェクト 0268-38-2020
事業区分	ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,666,788円 (うち支援金:1,236,000円)

事業内容

○事業1・聖地の恵オリジナルブランド

今期はブランド商品の販促と周知のため媒体を整えた。それを用いて県内外のイベントで活動・物販を行った。

- ・上田電鉄 (@下之郷) 聖地の恵商品販売とPR
- ・別所市場 (@別所温泉旧愛染閣跡地) 聖地の恵商品販売とPR
- ・上田広域宣伝事業 (@多摩プラザ) 聖地の恵販売とPR

今期新たに企画したワインは塩田平の質の高いぶどうを使用し評価も高い。

また玄米珈琲は農業でも強みのある塩田産米を活用した変わった商品だが、ノンカフェインで妊婦や高齢者も飲めるため人気である。

こうした活動を引き続き継続し商品のブランド化につなげていきたい。



【宣伝イベントの様子 (多摩プラザ)】

○事業2・聖地体験 (ヨガ・太極拳)

ヨガ、太極拳を開催。

30～40代の女性をターゲットに太陽と大地の聖地での体験をテーマに実施。特にヨガは徐々に去年まで来ていた客層から広がりリピートしてくれる参加者も増加。

健康を意識し、早朝であることや神社というパワースポットであることも体験として訴求できる理由となった。ヨガは目標200名に対して161名で減少したが昨年の120名よりは増加。

太極拳は北向観音という立地がアクセスが良く、無料なため特に地域の参加者が多かった。目標90名に対して61名と参加者は減少してしまったが両体験とも人数の減少はイベントや行事、天候と重なり予定回数の20回から15回の実施になったことも目標比から減少の理由ともなるが、昨年からのリピーターや旅館への宿泊者、信州DCにからめた宣伝などで夏場は特に増加した。今後は、各旅館や昼・夜の時間帯でも様々な場所で体験ができるよう検討したい。



【聖地体験の様子・太極拳】



【聖地体験の様子・ヨガ】

○情報発信・地域浸透事業

情報発信として、新たに太陽と大地の聖地を着地型で伝えるムックを作成。写真や見せ方など

(別記様式第12号) (第3の8関係)

従来の古い温泉地から脱却し、過ごし方やターゲットの女性を意識した構成とした。各旅館での宿泊客や滞在者へ配布中。またオリジナルブランドを浸透させるためのウェブサイトを作成。

<https://www.seichinomegumi.com/>
地域浸透として、地元の住民に活動の理解を得るための冊子を区民へ配布。今後協力者や参加する住民が増加していけるよう進めたい。

事業効果

太陽と大地の聖地とデトックス&チャージというビジョンとコンセプトの元、新たな商品造成や宣伝媒体整備、滞在コンテンツの実施ができた。また会議には多くの団体を巻き込むことでそこからの協力関係が築けた。昨年は地域との合意形成や試験的な体験の実施をしていたが、今年は継続を目的として実施ができたが、大きな事業効果でいうと別所温泉自体の集客が減少し、体験の参加者なども大幅な増加がなかったことが反省点。今後は継続的に事業を実施することでコンセプトやビジョンを元にした体験や商品開発を継続しより多くの内外の関係者と連携していきたい。

【目標・ねらい】

- ①地域に関係する多くの団体・住民と連携
- ②前期二続き太陽と大地の聖地をコンセプトにした体験や商品造成と、その販売拡大
- ③新しいターゲットに向けた訴求効果を上げるための媒体やコンテンツを整備する
- ④地域の観光発展と全体の意識向上

※自己評価【C】

【理由】

全体的に必要なとされる事業は滞りなく完了したが、変更が多かった。継続事業で発展させる目的や定着を目指したが、時間がまだかかり、より継続的な事業推進をすべきだと感じた。その中でも今回造成した各種ツールを十分に活用していくことが必要と感じた。今までのお寺と温泉のみで古い温泉地といったイメージを一新するために、集客や地域連携を継続して行っていきたい。

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田地域の新たな観光戦略づくり事業
事業主体 (連絡先)	上田地域観光協議会 主任 横澤幸江 電話 0268-43-8818 F A X 0268-42-6740
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり (8) その地域地域の元気を産み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	9,430,560円 (うち支援金: 7,544,000円)

事業内容

- 観光動態(GPS)・観光意向(GAP)調査での実態把握
 - 観光客の動態を科学的手法(GPS調査)で把握
 - GAP調査で上田地域の隠れた観光資源を掘り起し
- GPS・GAP調査結果に基づくパンフレット等の作成

観光戦略会議を7回実施して内容等を決定。
役割分担させた2種類の観光パンフレットを作成。

 - 情報発信用観光パンフレット及びポスター

「ぐるっとめぐる 信州上田地域の旅」
観光・食資源を主に首都圏在住者の誘客を図る。
パンフレット: A4版16ページ、20,000部
ポスター: B1版50枚
 - 周遊促進用(着地型)観光パンフレット

「信州上田地域じゃらん」
地域のコアな魅力を満載して、滞在時間の延伸を促進。
A4版8ページ、30,000部。
Web「じゃらんnet」でも閲覧可能!



事業効果

- 2種類のパンフレットによる相乗効果

観光客の観光満足度向上でリピーター増加を期待。
- GPS調査及びGAP調査結果の公表による効果
 - 観光客の動態を公共交通機関や観光関係者等各機関における観光戦略立案への活用
 - 「もてなす側」が観光客の意向を認識・活用して、自らの行動することによる、観光客の観光満足度の向上

【目標・ねらい】

- 上田地域の観光客の動向を科学的に把握・分析
- 観光客の意向を調査し、観光に関する課題を整理
- 観光客のニーズに合致した観光戦略を立て、地域が一体となって取組み観光振興を図る

今後の取り組み

- 2種類のパンフレットを上手く活用して、地域内の観光振興を図る
- 周遊現場では「おもてなしの向上」を図ってもらい、滞在時間の拡大や周遊促進、更に再度来訪につながるよう、観光現場に情報を提供

※自己評価(事業実施率) **【A】**

- 観光客の観光満足度の向上に資するパンフレットの内容
- “じゃらんnet”での閲覧可能により、日本全国に情報を発信
- 調査結果を地域の関係機関が活用できるよう情報を提供

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州シルクロード：旅物語づくりと情報基盤整備
事業主体 (連絡先)	シルクロード長野ネットワーク (〒386-1298 上田市下之郷 658-1 長野大学内)
事業区分	6 ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,192,464 円 (うち支援金：892,000 円)

事業内容

【1】モデルツアー実施とモデルコースづくり

長野県内の蚕糸業遺産を観光資源として、どのようなツアーの実施が可能であるかを探るため、モニターツアーを実施し、モデルコースをまとめた。

【2】旅物語を活かすための情報基盤整備

信州シルクロード観光資源、スポット検索、ルート確認などができる観光ナビゲーションのアプリとクラウドサービス、ウェブコンテンツを開発した。

【3】信州シルクロード観光シンポジウムの開催

観光ミニシンポジウムでモニターツアー実施、観光案内アプリ開発の事業成果を報告した。さらに、ミニシンポジウムの記録と事業成果を最終報告書にまとめた。



【モニターツアーの風景】

【目標・ねらい】

- ① モデルプラン策定・知見獲得
- ② 観光案内アプリ等の提供
- ③ 成果の地域横断的提供

事業効果

① 「信州シルクロード」観光モデルプランの策定
モニターツアーの実施により、旅行業者と観光客の双方のニーズに合わせ仔細に課題を分析し、実行可能なモデルプランを策定することができた。

② 観光案内アプリ等の提供
シルクスポット等の観光情報を観光案内アプリに連動させる情報基盤が構築できた。各地の観光協会等の情報基盤として活用できる。観光客が旅先で利用できる。

③ 地域を横断した観光プランへの発展の礎
本事業の成果である観光プランと観光案内アプリは上田を中心としたモデル地域を超え、全県で共有できるものである。信州シルクロード連携協議会を通じ、その普及を図ることができるようになった。

※自己評価【 B 】

【理由】

シルクロード観光そのものに対する一般的な関心の低さはいかんともしがたく、地に足を着けた小規模な事業となった。その分、啓発効果を高めるまでには至れなかった。

今後の取り組み

目標とした成果が得られたことから、今後は次の通りそれらの普及につとめていく。

- ① 観光モデルプランの観光商品造成に向けた業者主導による取り組みの実践
旅行業者との連携で実施したモニターツアーによりシルクロード観光に関する知見が得られた。今後は業者が主体となり、試行錯誤しながら観光商品造成を継続的に発展させていく。
- ② 観光案内アプリは各自治体観光課・観光協会等に周知し、対象エリアの拡大を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成 29 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	アクティブシニア社会参加支援事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人健康サポートまごの手 上田市中心 4-9-1
事業区分	(2) 保健医療福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,524,601 円 (うち支援金: 1,217,000 円)

事業内容

地域の支え合いの場となるサロンやふれあいの会でのシニアリーダーが教科書として活用できる音楽レクリエーション用 DVD 付きテキストを作製する事により、高齢者の社会参加と生きがい・やりがい作りを支援する。

- 〔 高齢者のなじみのある 12 曲の体操 DVD 付きテキストを 240 部作製
- 〔 上田市全域 12 カ所で研修会を行い無料配布する。



【テキスト配布・研修会の様子】

事業効果

- ・ 上田市や社会福祉協議会、自治会との連携により研修会に予想を大きく上回る 780 名の地域貢献の意識を持った方が参加。
- ・ シニアリーダーの出会いの場にもなり、グループを組みサロンを立ち上げたり、ボランティアを始める方々も排出できた。
- ・ CG を駆使したレベルの高い DVD に仕上がった事により、明るく使いやすく、さっそくサロン・ふれあいの会等で活用され喜びの声が届いている。
- ・ 男性の社会参加が課題の中、機械操作等の役割を担ってくれ、社会参加のきっかけとなっている。
- ・ 座ったままでも出来る事により参加者から運営側に移行してくれた方が増えた。その中には 90 代の方もいた。

【目標・ねらい】

- ① 高齢者の社会参加による人生二毛作社会の推進
- ② 支えられる側から支える側として生きがい・やりがいの創出
- ③ 社会の推進地域の支え合いの場の充実と拡大
- ④ 地域コミュニティの活性

※自己評価 【A】

【理由】

- ・ 研修会に 780 名が参加し地域リーダーの拡大ができた。
- ・ 高齢者の社会参加、地域支援の意識が高まった。
- ・ 男性の社会参加の拡大ができた。
- ・ レベルの高い DVD 付きテキストが仕上がり、シニアリーダーのモチベーションアップにつながった。

今後の取り組み

- ・ 毎月一回スキルアップ研修と交流会を開催し、体操指導やプログラム、グッズのワークショップを行う。
- ・ 交流会では情報交換や活動報告をし合い、モチベーションを上げ、高齢者の社会参加の活動の場が広がる後押しをしつつ、コミュニティの活性化に尽力します。

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	シニア世代を中心とした健康づくり推進事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人うえだミックススポーツクラブ 上田市本郷 631-2
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実に係る事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	638,460円 (うち支援金: 342,000円)

事業内容

元気な高齢者を増やす対策として、人や地域とのつながりの必要性と、運動実践を通じて仲間づくりの方法や気軽に楽しく継続するための運動を実施。

- ・石川善樹氏による「友だちの数で寿命は決まる。人とのつながりが最高の健康法」の講演会 (H29. 6. 16)
- ・犬飼乙紀子氏による「レクリエーション実践講座」の運動実践 (H29. 9. 2)
- ・讃井里佳子氏による「スロージョギング®実践講習会」の運動実践 (H29. 11. 12)



【各講座の様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 講演会参加者のアンケートから「人と人とのつながりを多く持つことは健康に良い」「見知らぬ人でも助ける事で幸福感が増す」などの感想を得られた。
- ② レクリエーションは「エンジョイする」「人の輪から生まれる支援の輪」であり、初対面の方とも気軽に行え、心のどこかで人の気持ちを思いやるということが実技を通じて理解できた。
- ③ 一度に多くの時間をかけなくても、少ない時間を重ねて実施すること。日常生活のちょっとした時間で実施できる。少ない時間でも太もも・大腰筋・お尻の筋トレがでるなど、継続の声が多く聞けた。

【目標・ねらい】

- ① 人や地域とのつながりの大切さを学ぶ
- ② レクリエーションを用いてコミュニケーション能力向上
- ③ 仲間と継続できるスロージョギングの習得

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

コミュニケーション大切さの意識は高まっていますので、継続する運動としてスロージョギング®を第1,3土曜7時から塩田公民館で、第2,4土曜7時30分から上田城跡公園やぐら下で実施している。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・各講座とも参加者から満足の評価をいただいた。
- ・気軽に楽しく直ぐに実践できる内容が計画できた。
- ・各講座とも参加人数を多く計画してしまい、実際の人数との差が大きかった(反省点)。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	子どもアトリエ創造活動プログラム in 上田市立美術館
事業主体 (連絡先)	子どもアトリエ運営委員会 (事務局：上田市立美術館) 0268-27-2300
事業区分	(3) 教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	688,122円 (うち支援金：516,000円)

事業内容

上田市立美術館に併設の子どもアトリエでは、アートによる体験を通して「つくるって楽しい」「表現するっておもしろい」を感じながら、子どもたちの自由な発想、新たな創作意欲を引き出すきっかけづくりとなるプログラムを行っています。

美術を難しく考えず、体全体を使って素材に触れて楽しむプログラムや通年・連続した講座で経験を重ね、創造力や表現力を育むプログラム、そして幼稚園・保育園や小学校に来館いただき、普段の園や学校生活では行うことが難しい創作活動を美術館で体験するプログラムなどを実施しながら、子どもたちの考える力や豊かな感性を育みます。



【プログラムの様子】
アソビジュツ！
美術館のガラスに絵を描こう！

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①えのぐで大きな紙やボードに描いたり、自由な発想で作品をつくり、美術館のガラスに絵を描いたり、気軽に美術を楽しむ、アートを通じて友達同士や親子でのコミュニケーションを図ることができる場を創出・提供した。

②昨年比で参加者が約300人増加。延べ2,500人を超える子どもたちや親子がアートに触れ、創作活動を体験した。

③今回初めてプログラムに参加する子どもたちや親子も多く、参加した方が友達や知り合いに紹介して広まるなど、子どもアトリエの活動に対する認知度が上がった。

④のびのびとした環境での創作活動の機会を提供でき、園外、課外活動としての子どもアトリエの活用を周知できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

さらなる参加者、体験者の増加を目指し、多くの子どもたちや親子、大人の方々にアートや美術・芸術に触れる機会、創造・創作活動の増進を図り、文化振興の向上につなげたい。また、園外、課外活動などで子どもアトリエの活用が深まるよう、来館の機会や手段の確保など、保育園・幼稚園、学校との連携・協働に努めていきたい。

【目標・ねらい】

- ①アート体験の場の創出・提供
- ②プログラム体験者の増加
- ③子どもアトリエプログラムのPR
- ④幼稚園・保育園、学校への周知

※自己評価【 B 】

【理由】

子どもたちや親子、大人など多くの方々にアートに触れる機会を提供でき、園や学校にも活動の周知を行うことができた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成 29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	あそびの森2017 (子ども～大人のあそび交流活動&遊育環境を考える大人向け研修活動)
事業主体 (連絡先)	あそびの森実行委員会 (上田市上田 1883-B203 ☎080-5505-4302 ☎268-71-7379 事務局 清水洋幸)
事業区分	主となる区分：(2)保健、医療、福祉の充実に関する事業 関連する区分：(1)地域協働の推進に関する事業 (3)教育、文化の振興事業 (8)その他地域の元気事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,567,532円 (うち支援金： 1,247,000円)



事業内容

核家族化や少子化、地域のつながりの希薄化に加え、ネットやゲームなどにより、子どもたちのあそびや関わりが複雑化・歪曲化している中で、子どもから大人までがあそびを通して関わり合い・関わることの豊かさを実感していく、「子どもから大人のあそび交流活動」を実施。さらに、子どもとの関わりやあそび環境を考えるため、子どもに関わる大人向けワークショップ・シンポジウムなどの「遊育環境を考える大人向け研修活動」を行った。
 (1)わくわく信州体験隊 × 4回 (2)地域を遊ぶ！～子どもから大人のあそび合い～ × 6回 (3)子育てシンポジウム子どもの育ちとあそびのチカラ × 1回 (4) 大人対象ワークショップ 広がれ！あそび心講座 × 4回



【わくわく信州体験隊】
信州すごろくをあそぶ

【目標・ねらい】

- ①関わりで生じるプラスの実感
- ②子どもと地域のつながりの構築
- ③参加者の増加・継続化
- ④活動主旨の理解・普及

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

子どもから大人のあそび交流活動では、信州の魅力ある地域・空間・人的資源の中で、様々な関わりから生じたプラスの実感や人・地域との関わりそのものの豊かさを感じることができた。また、今年度の事業をきっかけに様々な地域や行政、市民団体との継続的な関係性が構築できた。

遊育教育を考える大人向け研修活動では、参加者が前年度比+26%と当初の目標以上に増加し、さらにはワークショップ参加者が主体となり、子どもたちと実際にあそび・関わり合う実践の機会を設けるなど、この事業の主旨の理解・普及が進んだと考えられる。

※自己評価 【 B 】

【理由】各活動の内容が充実し、参加者の皆様にも満足していただいた点、大人向け研修活動の参加者数が目標を達成できた点、一部の活動が地域行事と日程が重なり、あまり参加者が集まらなかった点の3点の理由から

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後はこれまでの活動に参加して下さった方々や協働していただいた地域・行政・市民団体との間で築くことができたつながりの中で共有してきたあそび観・地域づくりへの想いをもとに活動の継続を目指します。また今年度の事業の中で協働して活動を行った経験を活かし、さらに活動を展開するフィールドを広げ、より多くの子どもから大人にあそびの森実行委員会の活動・主旨を届けていき、人や地域と関わることの魅力を伝えていきます。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

- ※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「信州上田のなないろ農産物」ブランド化事業
事業主体 (連絡先)	上田地産地消推進会議 TEL: 0268-21-0053
事業区分	(6) イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,303,687円 (うち支援金: 1,842,000円)

事業内容

- 1 上田市における地産地消・食育の取組
 - (1) 「信州上田のなないろ農産物」の周知を図る体験プログラム実施
 - (2) 地大根を使った料理教室の実施
- 2 市外に発信するブランド化推進活動
 - (1) 「信州上田のなないろ農産物」PR動画作成
 - (2) 外食ビジネスウィーク2017に出展
 - (3) スーパーマーケットトレードショー2018に出展
 - (4) 「全国うまいもの交流サロン(なみへい)」へ出展
- 3 うえだみどり大根収穫祭



【PR動画内カット】

【目標・ねらい】

- ①地産地消の機運醸成
- ②食育の推進
- ③市内外での認知向上
- ④地域農業の活性化

事業効果

- 1 (1) 実施教育機関3団体(参加者計79名)
(2) 実施回数2回(参加者計41名)
- 2 (1) 視聴回数1,188回
(2018/2/27現在 放映期間約5か月)
(2) 商談件数96件 内サンプル送付数41件
内新規取引件数3件
(3) 商談件数65件 内サンプル送付予定数32件
内新規取引予定件数2件
(4) 来客数783名(過去最大) 営業日数23日
提供メニュー数17種
- 3 来場者数100名 収穫実施5kg×89箱分
メディア報道回数15回

※自己評価【A】

【理由】
3については天候の影響もあり県外客の誘致に反省を残す結果だったものの事前告知等の広告効果は大きかった。事業内容1・2については計画以上もしくはそれに近い結果が得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回培ったノウハウや実績をふまえて、「信州上田のなないろ農産物」として他農産物のブランド化の取組を推進する。「うえだみどり大根」については認知向上等一定の成果が得られた。実施事業の継続をしながら、今後生産者増を図るなどブランド推進による需要拡大にこたえられる体制づくりをすることでブランド化の強化を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある